

## 2007 豪州・ペンリス市 春ゆめの大自然交流合宿

- 目的 1) 大自然の素晴らしさを体感し、自然保護の大切さを知る。  
2) 異年齢の仲間達と群れ集う中で、自分を知り、仲間を知り、群れ集う素晴らしさを体得する。  
3) 仲間達との交流を通じて新たな人間関係の構築を図る。
- 主催 特定非営利活動法人 静岡県教育フォーラム  
共催 藤枝市国際友好協会  
ペンリス市国際友好協会
- 後援 サンワ開発(株)様、(株)中央防犯様、消防設備保全(株)様、(有)カー牧場リベロ様、(有)静岡オープンスクール
- 協賛者 (掲載のご同意が取れませんので、1名様のお名前は差し控えさせていただきました。)
- 協力 西鉄旅行(株)
- 場所 オーストラリア・ペンリス市
- 日時 2007年3月23日(金)～3月27日(火) 4泊5日
- 宿泊 ケーブルス・ロッジ Cables Lodge Accommodation
- 日程
- 第1日目3月23日
- 12時半、藤枝市役所集合。13時10分、猛烈に行き渋る不登校の小学生がいて、山下が約1時間本人と話し合い、前回参加し、見送りに来たリーダー・I.Y.君も加わり、彼の説得で本人ようやく本交流合宿参加を納得し、遅れて出発。
- 18時35分成田空港着。20時50分、予定より40分遅れで、成田空港出発。QF136便。後藤・国際交流協会会長は、30分後にJAL便にて向かう。
- 第2日目3月24日
- (現地時間)朝6時半、機内にて朝食。8時45分、シドニー空港着。後藤会長と合流。バスでロッジへ。荷物を置き、着替え。
- 11時、歓迎会。Baddyと対面。於：ペンリス市役所。
- 12時、ロッジへ、着替え。
- 13時、スポーツカーニバルへ。於：トレンチリザーブ。大きなホットドッグで、昼食。ちょっと暑い中、Buddyとゲームを楽しむ。
- 16時、ロッジへ。シャワーを浴び、着替えて、一休み。
- 18時、バーベキューパーティ。強いホームシックになる参加者が出て、リーダー達が対応。最後に山下がカウンセリングを行い、落ち着く。8時半頃、Buddy達も帰宅。再びシャワーを浴びる子もいて、21時半、就寝。が、24時近くまで起きている参加者も。

リーダー、スタッフミーティングも少し盛り上がる。禁止されていた3段ベットの最上段に寝込んでしまったAくん（小5、全4回参加）が、朝方落ち、手首を捻挫する（帰国後判明、謝罪）

第3日目3月25日

6時半、起床。第2回目の同交流合宿からお世話になっているJ氏のお父さんが朝食準備のお手伝いに来てくれる。リーダーも起きてきて、朝食準備。朝は冷え込む。10度位下がる。

7時、朝食。トースト、シリアル、果物、ジュース。

8時半、Katoomba・ブルーマウンテンへ。スリーシスターズ見学、シーニック・レイルウェイ（傾斜80度を超す斜面を、石炭坑用トロッコで約200m下る）に乗車。リンゴ皮むき器体験。



12時、ロッジで昼食。例のキングサイズのミートパイ、ポテト、グリーンピース、ジュース。

13時、フェザデイル野生動物公園へ。ウオンバット、カンガルー、コアラ・・・この時期しか見られないビルビーも見。途中、少し雨に降られる。土産買いに1時間半ほど費やす。

16時半、ロッジに。心理テストを採る。

17時半、Buddyが宿舎に集まり始める。お互いに初めての体験で言葉が通じないBuddyと少しぎくしゃくし、そのBuddyの学校の先生とペンリス市国際友好協会（PIFC）スタッフ、山下とで話し合う。その学校の先生とPIFCスタッフを交えて、当人同士気持ちをじっくり伝え合い、解決する。

18時、ピザパーティ。ペンリスの藤枝との交換留学生経験者の生徒達も通訳の応援に来てくれ、参加者はBuddy達との会話や交流を大いに楽しむ。

21時半、就寝。勿論、全員興奮して、遅くまで起きている参加者もあり、注意される。全員、荷造りを行う。また、リーダー、スタッフミーティングが45分遅れる問題が起こりこちらも注意を促される。参加者の心理テストに様々な変化が表れる。

第4日目3月26日

6時半、起床。今日はJ氏のお母さんも朝食準備に来てくれる。メニューは前日と変わらず。

7時、朝食。

8時、小学校と中高等学校に分かれて、Buddyの学校訪問、授業参加。小学校は3組に分かれて、他の学校のBuddyで、Buddyのいない子には、その場で1日Buddyを募り、すぐ決まり、各組ともそのクラスの授業を受けた後、クラスみんなに鶴の折り紙を指導、クラスによっては日本語も教える。中高校生はBuddy達の演劇を鑑賞、アボリジニーの絵画の授業を受け、Buddy達とラグビーを楽しむ。

学校で昼食後、午後、ペンリスプラザで買い物。連絡の行き違いかでBuddy達は来れず、参加者達にリーダーやP I F Cのボランティアがついて買い物に奔走する。やはり買い物に夢中になり、集合時間に遅れる者有り。

16時半、ロッジへ。各自ロッジの清掃を行う。

18時、送別会の会場のメモリアルホールに向かう。

18時半、送別会。たくさんのバイキングの食事の後、セレモニー。ペンリス市国際友好協会副会長、藤枝市国際友好協会会長、当フォーラム理事長挨拶の後、リーダー代表でS. Y. 君、参加者代表でT姉妹、A. K. 君、S. T. 君が英語でスピーチする。U. A. さん（書道有段者）、Y. A. さん（書道有段者）、S. E. さん（書道師範、不登校経験者）の書道披露、会場の感心を誘う。作品はペンリス市に贈呈。ペンリスの人達に練習に書いたものをサイン入りで求められる。「世界で一つだけの花」を、参加者、リーダー全員で振り付けして披露。拍手喝采を浴びる。Buddy達と涙の別れ、21時過ぎに終了。

22時前にロッジに戻る。シャワーを浴び、就寝。しかし、興奮してなかなか寝付けず、24時、1時と2回スタッフに注意される。中には、寝てしまうと、宿舍出発の朝3時には起きられないと徹夜する者もいた。

第5日目3月27日

3時過ぎ、起床。P I F Cスタッフが見送り同行に来てくれる。

4時過ぎ、シドニー空港へ。

5時半、チェックイン。6時36分、メルボルンに向かう。QF405便。

7時、機内食で朝食。

8時過ぎ、メルボルン空港に到着。次の便まで、みんな寝不足でぐっすり。

9時40分、QF179便で成田空港へ向けて出発。早速寝込む参加者有り。感想文を書き、心理テストを採る。昼食後、高度10000mからいくつかのグレイトバリアリーフ（世界遺産登録）を見る。



機内では15歳の時浜松でホームステイの経験があるフライトアテンダントが親切に対応してくれる。アイスクリームとスナック菓子のサービスもある。16時半、機内食で、夕食が出される。

出発が遅れたにもかかわらず、予定より25分早い日本時間18時30分、成田空港着。迎いのバスは都内で渋滞に遭い、到着が遅れるが、出国手続きがかかり、間に合う。別便で来た後藤・藤枝市国際友好協会（FIFS）会長と合流。翌日の仕事の関係で、J.K.リーダーと佐々木FIFS副会長と別れ、藤枝市のバスで藤枝に向かう。時間が遅れているため、海老名SEでは急いでトイレと夕食買いをすまし、帰路を急ぐ。途中、裾野でS.T.君、日本平でA.K.君、Y.A.さんが下車。参加者のご父兄からメールが多々来るもリーダー、スタッフの携帯電話の電源切れにあい、待ち合わせ時間の連絡がつかず、参加者のご父兄に大変なご迷惑をお掛けする。

24時半、藤枝市役所に到着、解散。

実施説明会 2007年1月7日（日）午後1時半～3時、於：青島北公民館学習室1,2

参加者交流会 2月11日と3月21日（共に祝日）午後1時半～3時半 於：藤枝市れんげじ公園

会話研修&グループミーティング 3月3, 10, 17日（共に土）午前10時～12時  
於：藤枝市青島北公民館学習室3

実施報告会 5月13日（日）午後1時～3時 於：藤枝市役所大会議室

お知らせ！（3/7）消防設備保全（株）様より、NPO 静岡県教育フォーラムのリーダー、スタッフベスト10着の提供がありました！

参加人数 小学生10名 中学生～22歳 10名 計20名

スタッフ3名、リーダー4名が同行しました。

\*平成19(2007)年2月5日（月）静岡新聞朝刊に募集記事が掲載されました。

ペンリス市の地元新聞にも5月7日、本合宿のことが紹介されました。

## 参加者感想文

T.M.さん（小3）

「オーストラリアに行ったこと」

4泊5日でオーストラリアに行行って来ました。23日は、飛行機の中で音楽をきいたり、ゲームをやりました。でも、24日の機内朝食を食べたけど、おいしくなかったです。バディとスポーツカーニバルに遊びに行きました。バーベキューパーティーでごはんを食べました。25日は、ブルーマウンテンに行行ってトロッコに乗って、歩いて写真を撮りながら歩いて、もう一つの乗り物に乗ってバスに乗りました。フェザテイル野生動物公園に行行ってきました。スタンプラリーをやりました。そして、中に入りました。ウォンバットとい

う動物を見ました。ほかに、コアラやカンガルー・デビルなどいろいろな動物の写真をいっぱいとりました。ワラビーという動物がかわいかったです。お土産も自分の分や友達のを買ってきました。オーストラリアで、送別会をやって世界に一つだけの花を歌いました。そしたら、いっぱい拍手をもらいました。オーストラリアは、すごく楽しかったです。バディーのエイミーちゃんともっと遊びたかったです。また、オーストラリアに行きたいです!!

M. J. 君 (小3)

「初めてのオーストラリア旅行」

ぼくはこの会が始めてだったので、どのような会か楽しみでした。そして、バスにのって成田空港に着きました。ちょっとよったけど、はきませんでした。この会で楽しかったのは、フェザディル野生動物公園でした。なぜかという、カンガルーをさわられたし、スタンプも全部集める事ができて楽しかったです。

オーストラリアは、日本とちがって自然がいっぱいありました。でもおみやげめあてのクロコダイルとカンガルーのビーフジャーキーが売り切れだったのがざんねんでした。でも、心にのこるいい会でした。

M. S. さん (小3)

「バディー」

わたしの感想は、オーストラリアに来て、バディーと仲よくできたことです。はじめにはどんなバディーかなと思ってドキドキしていたけれど、とてもにぎやかなバディーでした。かんげいかいの時は、たくさんえい語をしゃべって来て意味がわからなかったけど、おもしろかったです。かみふうせんをいっしょにやったり、おりがみをいっしょにやりました。そんなにおりがみは、できていなかったけれど、かみふうせんは、とっても上手にやっていました。わたしとこの3日間いっしょにいたバディーはぜったいわすれません。またいつかオーストラリアに行きたいです。

A. K. 君 (小4)

「オーストラリアにいて」

ぼくはオーストラリアに行って、一番たのしかったことは動物園です。オーストラリアの動物園でみたカンガルーです。白いカンガルーを見てびっくりしました。ぼくは、夢中になって写真をとりました。そしたらその白いカンガルーがぼくのめのまえにきてこっちをむいてくれました。そしていっぱいカンガルーをとりました。

つぎにコアラを見にいきました。コアラはめちやくちかわいくてなでてみたらすぐ、ふあふあでした。コアラといっしょに写真もとりました。

バディーともいっしょにあそびました。ぼくのバディーはすごくやさしかったです。バ

ディーとはまたあそびたいなと思いました。

M. S. 君 (小5)

「一生わすれないオーストラリア旅行」

この会で、一番心に残ったことは、オーストラリアの学校に行ったとき、まだ、会ったことのない小学生が話しかけてくれたことです。始めのうちは、言っていることがさっぱりわかりませんでした。でも、話しているうちになんとなく、言っていることがわかってきました。話しかけられたときは、すごいびっくりしたけれど、すごくうれしかったです。

それと、一番悲しかったことは、買い物に行ったとき、なんにも、買わなかったことです。そのわけは、ほしい物がなかったから……です。

初めての、オーストラリア旅行でしたが、色々な思い出を残すことができ、本当に、楽しかったです。

M. K. 君 (小4)

「はじめての海外旅行」

ぼくは、オーストラリアに行きました。ぼくは、かい外りょこうは、はじめてだったので、さい初はとても、きんちょうしました。

ひこうきの中にいる時間は、とても長かったです。その時間のはんぶんぐらい、ゲームをやっていました。

ぼくのバディーは女の子でした。なんで女の子なのかふしぎにおもいました。でも、さいごは、はなしとかもできたので、よかったです。ジュースがとてもうまかったです。

オーストラリアさいこー。

K. A. 君 (小5)

「楽しかったオーストラリア」

ぼくは、オーストラリアにきて楽しかったことは、いろいろあります。たとえば動物園です。オーストラリアしかいない動物がいてとてもわくわくしました。スタンプラリーもあって楽しかったです。

M. N. さん (小5)

「オーストラリアに行って」

私がオーストラリアに行って心に残ったのはオーストラリアの学校に行った事とブルーマウンテンに行った事です。

私のバディーは高校生です。今まで年の近い子がバディーだったので初めてかんげい会で会った時はとてもびっくりしました。バディーは高校生なのに私は小学生なのでバディ

一の学校には行きませんでした。でも、小学校ではびっくりした事が2つもありました。1つ目はオーストラリアの子が日本の事が大好きだという事です。教室には、おすしの写真やおはしや本物のわさびや日本の国旗や日本の本が3冊もありました。本を見てみると「富士山」の事や奈良の大仏様がのっていました。表紙にたこがのっていて、「これ何？」と聞いてきたので「たこ」と教えてあげました。2つ目は「エミリー」という友達ができただ事です。私はバディーがないので、なるべくたくさんの人と接するという目標を持っていました。折り紙でつるを教える時にエミリーが話しかけてきて、英語はしゃべれないけど笑ってごまかしたら仲良くなれました。とてもうれしくて日本に帰りたくないと思いました。

ブルーマウンテンでは、トロッコに乗りました。すごく急で、耳がキーンといたかったです。3つの岩も見ました。3人姉妹が岩になってしまったと言っていたので、まるで私たちのようだなあと思いました。

私はこの5日間がとても長く感じました。この経験を生かしてこれからは人にたよらないで自分でがんばりたいです。

#### M.N.さん (小6)

「オーストラリアに行って分かったこと」

私は3月24日、25日、26日とオーストラリアに行ってきました。オーストラリアに行って、一番思った事は「バディーと仲良くなれるかな？」と、いう事でした。でも、行ってバディーに会ったら、すごくやさしくて、すぐ仲良くなれたので、スポーツカーニバルや、ピザパーティーが楽しかったです。けれど、一つ大変な事がありました。それは、私が英語をしゃべれないという事です。けど、今は、英語がしゃべれなくてよかったと思っています。理由は、言葉がちがっても、通じ合えると分かったからです。これからは、この事をいかしていきたいです。

#### A.Y.さん (小6)

「オーストラリア」

わたしは、はじめてオーストラリアへいきました。とてもおくてびっくりしてしまいました。なぜかというと、すごく長い時間ひこうきにのっていたからです。

オーストラリアについて、バディに会いました。バディはかみのけが長くかわいい女の子でした。おみやげのおひなさまをとてもよろこんでくれました。わたしもバディにもらったコアラのお人形を大切にしています。

いちばんのおもいでは、オーストラリアの人たちのまえて歌を歌ったことです。出発する前かられんしゅうしていたので、じょうずにやれて、うれしかったです。またオーストラリアにいきたいです。

S.T.君 (中1)

「日本とちがうオーストラリア」

オーストラリアは日本とちがう。白人黒人英語といった生活のちがい……。日本とちがってオーストラリアは二階建てが少ない。土地がものすごく広い。学校が自由で休み時間が長い。学校も広い。そんな日本とまったくちがう土地でぼくは、多くの友達といっしょに3泊5日のけんしゅうを行った。なにもかもが初めての僕、初めての飛行機、初めての海外旅行、初めてばかりですごくドキドキしていたけど、時間が経つにつれて、自然と、その環境に慣れていった。バディーの友達とも仲良くなっていき、たがいに一人の友達として接するようになった。初めてなことだらけでいろいろ大変だったけど、まあまあ楽しいけんしゅうだったと思う。

S.A.さん (中1)

「オーストラリアに行って」

私は、オーストラリアにいる、3日間とても楽しく、すごせました。動物園に行って、カンガルーやコアラを見たり、スポーツカーニバルをやったり、バディと、話したりして、楽しかったです。

初めは、バディが何を言っているかわからなかったけど、だんだんわかるようになってきて、合づちを打ったり、返事をしたりできるようになりました。

違う国の人と、交流してみて、言葉の壁など、いろいろなことがあったけど、バディと仲良くなれて、よかったです。

今度あるときは、また、行きたいと、思います。

T.M.さん (中1)

4泊5日で、オーストラリアのペンリス市にいて来ました。バディーを決める時に、ものすごくきんちょうしたし、英語が話せるかもわからない状態だったけど、バディーと、3日間一緒に遊んだりしたら、きんちょうもなくなってきてぜんぜんわからなかった英語がなんとなく、わかるようになってきたかなって感じます。オーストラリアに来ての思い出は、やっぱりバディーの事だけど、送別会にみんなで歌を歌いながらダンスをおどった事です。「世界に一つだけの花」を歌っておどりました。オーストラリアの人達は、ノリがよく、ものすごく楽しんでくれていました。

オーストラリアに来て、楽しむことができてよかったし、送別会で、スピーチをした事など、すべてが良い経験になったと思います。でも、もっとKAYLEEと話をしたり、写真をたくさんとったり、遊んだりしたかったです。オーストラリアはとても良い所だった。オーストラリアに住んでいる人達も良い人ばかりで、4泊5日を楽しめました。

U.A.さん (中2)

私はオーストラリアに行って得られたものがたくさんありました。海外に行くのは私はいが初めてで、体験した全てのことがとても大切な思い出になりました。その中でもすぐに頭に浮かんでくることは、バディーの学校に行ってたくさん話せたこと、オーストラリアの人達がフレンドリーだったこと、一緒に行った友達と仲良くなれたことです。

私のバディーはジェシカという14歳の女の子でした。最初はまったく会話がなくて落ち込んだけど、ジェシカの学校に行ったときはジェシカの話も少しわかったし、私もわからない言葉は単語を並べて全然初めの頃より話せたし、打ち解けることができました。

次に思い出すことは、オーストラリアで会った人達がみんなフレンドリーでとてもいい人だったことです。日本は初めて会った人とはそんなに親しく話せないし、距離を置くけどオーストラリアの人達はみんな最初から友達のように話してくれてうれしかったです。日本もオーストラリアのようにみんながスグ仲良くなれるようになればいいなと思いました。

そして次は、一緒に行った友達と仲良くなれたことです。最初知り合いがあまりいなかったけど、日がたつにつれてみんなと友達になれて、そのみんなと話したりゲームをしたりしたこととても大切な思い出になりました。

今回の体験でもっと英語に興味をもてたし、友達もできて参加してよかったと思いました。ここで得たものや思い出をずっと大事にしていきたいです。

#### T.O.さん (中2)

私はこの体験を通して学んだことがたくさんありました。その中でも一番大きく心に残ったのが人との出会いです。

まず、この合宿に一緒に行った友達との交流です。最初、U.A.さんしか知り合いがいなかったので不安でしたが、時間が経つにつれて少しずつ話せるようになっていきました。最後には、皆ととても仲良くなれて年齢の違う友達が増えました。

次はバディーとの出会いです。私のバディーはナターシャとって14歳の可愛い女の子です。最初の歓迎会では、話しかけてくれても、英語の意味が分からず、うまく伝えたい事が伝えられなくてくやしかったです。でも、ピザパーティーでは映里さんのバディーのサマソンサと紙に分かりやすい様に質問を書いてくれて、少し会話ができてうれしかったです。そして一番楽しかったのは学校訪問です。ナターシャが自分の学校を細かく教えてくれたり、一緒に劇やダンスを見たり、ゲームをやったりと、とても充実した時間を過ごせる事ができました。その時にはナターシャとの距離が近づけたと思います。

そして、別れの時にナターシャが行ってくれた「アイミスユー」はとても嬉しかったです。この合宿を通して私は人との交流がいかに大切で、楽しいを学ぶ事ができました。今後はこの体験を忘れずに生かしていきたいと思います。

#### K.K.君 (高1)

今回初めてこのようなイベントに参加して、一緒に日本から行った仲間やオーストラリ

アで出会った仲間と、最高の思い出を作ることができました。オーストラリアに行って一番心に残ったのは、高校を訪問したことでした。自分はその日新しいバディと対面しました。一緒に授業を受け、食事をし、外で遊び、その日一日で彼との仲はとても深まりました。たとえまったく違う文化育ち、言葉がほとんど通じなかったとしても、一日もかからずに相手のすべてを知れるんだと強く感じました。このままずっとみんなと一緒にいたいと思いました。彼らととった写真が本当に宝物です。今回は本当に良い体験をしました。今後も参加したいです。

S.E.さん (高2)

「交流合宿」

今回の交流合宿で3回目になります。前回行った時は、なかなか英語がしゃべれなくてBuddyとあまり仲良くなれなかった気がします。なので今回は少しでも話せるように英語を勉強しました。だんだん慣れてくると自分からも話すことができました。他のBuddyの子とも仲良くなれました。少し自分にも変化がみられるようになってきたのかなと思いました。うれしいです。ブルーマウンテンはびっくりするくらいにキレイでした。絶景でした。動物園はコアラとカンガルーはやっぱ可愛いかったです。白いカンガルーも見ました。うさぎみたいでした。鳥も多かった。

Buddyと学校に訪問しました。習字をやってBuddyも一緒にやって楽しかったです。クッキーもおいしかったです。午後Buddyと買い物ができなかったのは残念でした。服が安かったんで買っちゃいました。夏に着ようと思います。

最後の送別会でプレゼントをあげてすごく喜んでくれました。送別会で書道を披露して、めちゃくちゃ緊張しました。言葉もうまく伝わらなかったかもしれないです。

最後に楽しく無事に行ってこれてよかったです。

K.I.さん (高2)

私は初めてこの交流会に参加しました。私は、英語がすごく苦手な相手に伝わるのかすごく不安でした。そして、自分の英語のなさに思い知らされました。オーストラリアに着いてバディーと対面をしたときにびっくりしました。向こうの子たちは背が高く、ピアスとか化粧がすごかったです。私のバディーはベックと言う子でした。本当に最初は何を話せばいいのかテンパってしまって話すことができませんでした。そのあとにスポーツカーニバルをしました。向こうのパン食い競争は日本と違ってすべて食べてフィニッシュでした。だから、食べるのがすごく辛かったです。2日目にブルーマウンテンと動物園に行きました。オーストラリアにしかない動物やベビーカンガルー、コアラがいて本当にかわいかったです。3日目にバディーの学校訪問に行きました。習字や折り紙、クッキーを作ったり美術の授業に出たり、スポーツをしました。習字をしたときにどう教えたらいいかかわらなかつたけど、バディーは私を見てまねして書いてくれました。でも、書き順

が違ったりしていて、おもしろかったけど、うまかったです。そして、初めは本当に興味がなさそうだったけど、でも折り紙をやっていたら「これ作りたい。」と言ってくれて作ったらすごく喜んでくれました。その次にクッキーを作りました。けっこうおおざっぱみたいで適当なかんじだったけどすごくおいしかったです。そして美術をしました。アポリジニのなんかを書きました。すごく楽しかったけど、バランスが悪くてうまくできませんでした。最後にベックがその紙の中に言葉を書いてくれました。「I hope you had a good weekend.」と書いてありました。私はそれをもらったときに涙が出そうでした。そして夜に送別会がありました。送別会にはベックのお母さんが来ていて、緊張して話すことができませんでした。初めは話しかけてくれなかったベックが話しかけてきてくれたときは距離が縮まったと思い嬉しかったです。私も少しずつ慣れて言っていることが少し理解できたし、ベックも理解してくれました。でも、言葉が通じないという不安で逃げていたり、理解しようともしていませんでした。今回参加して本当に英語を勉強したいと思いました。そして、必ず次に参加したときには逃げずに積極的に話したいと思いました。

Y.A.さん (高2)

「コミュニケーション」

私は、中学生になってから今まで五年間も英語を学んできました。今回の交流合宿では、自分が習得してきた英語をどの程度活用できるのかを知る良い機会になったと思います。実際に外国人と接してみると、自分の言いたいことを上手く伝えられず、一体自分は今まで何を学んできたのかと疑問を抱きました。私は今まで、英語に関しては受動的である授業のみでしか学んでいなかったと思います。これからは毎日少しずつ、自分から積極的に英語に触れ、将来的には外国人とのコミュニケーションをとることで、活動範囲や世界へ向ける視野を広げて生きたいと思います。

また、様々な年齢の人たちと接する機会となったと思います。私は、三人兄弟の末っ子なので、ワガママを言える立場であり、面倒を見てもらえる立場です。しかし、参加者の多くが私より年下で、どう接しようか悩みました。共に時間を過ごす中でどんどん仲が良くなり、話しかけられたり、頼られたりして、とても嬉しく思いました。私より年上であるリーダーは、強い責任感を持ち、本当によく私達の面倒をみてくれました。くたくたな体でも、絶えず笑顔を振り舞ってくれた可奈さんや美咲さん、通訳してくれたり、優しい言葉で安心感を与えてくれたたりもした桜井さんや遼太くんは、私達の理想とする、素敵なお手本だと思います。

文化の壁、言葉の壁にぶつかった今、自分にできることを精一杯行い、日本人とも外国人ともコミュニケーションをとることができればいいと思っています。

T.D.君 (大1)

バディのまりこさんは、私にとっても親切にしてくれ、大変助かりました。とても楽しかつ

たです。実は3月上旬、大学入試の合格報告に母と一緒に山下先生のところにお伺いした折、報告もそこそこいきなり今回の合宿に誘われました。母も示し合わせたように賛同し、先生は私の参加枠を既に用意してあり、半ば強引に参加するようになってしまいました。パスポートがくるまで、キャンセル料も覚悟の上でなんとか行かれない理由をあれこれ考えておりました。しかし、先生はそんな気持ちをこれぼっちも察する様子はなく日が過ぎ、知らずにその流れに乗せられ、前々日には私も先生にバディへの土産について相談しておりました。そして、遂には3月23日、足は集合場所の市役所に向かっており、自分でも不思議でした。しかし、参加して本当によかったです。オーストラリアの人々、自然は素晴らしかったです。

リーダー

K.R.君 (19歳)

「オーストラリア研修」

僕は高校1年生のときから佐々木先生より英語を学んでいて、先生の友好協会での活動を通じ、過去何回か藤枝市とペンリス市の交流行事に参加する機会に恵まれました。今回の静岡県教育フォーラム主催のオーストラリア訪問も先生より話を聞き、内容は漠然としか把握できていませんでしたが、参加してみたいとずっと思っていました。そして、いきなりリーダーとして参加することになったのです。果たして自分に務まるか不安でした。みんなと数回会っただけで仲良くなれるわけないとか、みんながどんな気持ちで参加しているのか理解できないまま、まとめてサポートすることなどできるわけないとか、迷いの中で様々なことを考えていました。しかし、“世界にひとつだけの花”の練習を通じ、最初はバラバラでしたが、少しずつお互いに心許す感じにつながるのができ、各々が打ち解けていくのがわかり、とても気持ちが楽になりました。このときは本当に嬉しかったです。

オーストラリアに着き、バディが紹介された瞬間にみんなの顔色が変わりました。言葉が通じないという思いからか、緊張からか、とても不安そうにみえました。そして、彼らと活動していく中で、バディに対し拒否反応を起こす子もでてきました。ある人から悩みの理由を聞きました。気持ちはよくわかりました。そこで、僕は間に入って助けたいと思ったのです。しかし正直、自分自身も相手の話している事が十分に理解できないことが多々あったため、自信が持てず、気持ちとは裏腹にどこか逃げ腰になっていたような気がします。自分の非力さを思い知らされました。一番の心残りは、もっとみんながバディと仲良くなれるような手助けをしたかったということです。このような苦い思いはありますが、今回の研修は、自分には何が足りないのかを知るとてもいい機会になりました。僕はそう考えるようにしています。

辛い思いもしたことと思いますが、みんなにとってもなくてはならない研修になったのではないのでしょうか？言葉が十分に伝わらなくても、通じ合える心を人は持っているんだということ、参加したみんなが少しでも感じていてくれたなら、こんなに嬉しいことはありません。

この感想文を打ち込みながら、みんなの事思い出しています。このメンバーで行けて本当に良かったと思います。ありがとう！！！！Thank you for happy time★

M.M.さん (20 歳)

「かけがえのない思い出」

私は今回初めてリーダーとして参加させてもらいました。様々な年齢層の参加者と一緒に過ごし、私が今まで忘れかけていた大切な事に気づかされる事が多々ありました。また、参加者の顔つきがオーストラリアに行く前と帰国後では全然違った事が何よりも嬉しかったです。

私は常に完璧を求めていたように感じます。だから失敗する事が嫌で、失敗する事がとても怖かった。しかし、この合宿を通して失敗しなければ何も生まれない。失敗する事が成功に繋がる最初のステップだと実感しました。それは、まだ英語も習っていない小学生がバディーと一緒にゲームをしたり、折り紙を教えたり、自分の名前を書いて教えたりと自分から一生懸命話そうとしていたからです。また最初は緊張してしたせいか、自分から話そうとしなかった子達も日に日につれて私に、「これって何て言えばいいの?」と聞いてきたり、「一緒に話に行っている?」と言ってきました。失敗を恐れず一生懸命取り組む姿を目の当たりにして、こんなにも素敵な事なんだと実感しました。そして、バディーとの距離が縮まり素直に喜んでいる姿、とても可愛かったです。偽りのない感情、子ども達が見せてくれる一つの表情がどれも新鮮で、私が忘れかけていた事でした。

また今回の合宿を通して参加者、皆が成長していました。普段接する事のない年齢層の人たちと触れ合う事でお互いが刺激し合い、学びあっていました。異国の地で共同生活をする事は家庭での生活とは全く違い、我慢しなくてはいけないこと、協力しなければならない事などがあります。3泊5日と短い旅行でしたが、その中で子ども達が自分なりに学習していたのだと思うと、本当に感心しました。目に見える成果であり、この合宿の意義を改めて実感する事ができました。

最後に、この合宿の企画者・理事長でもある山下先生、国際交流協会の後藤会長、佐々木さん、ペンリスの皆さんにはこの場を借りてお礼を言いたいと思います。本当に、このような素晴らしい体験をさせて頂きありがとうございました。リーダーでありながら、リーダーらしい事はできず、逆に色々と学ばせてもらいました。普通の旅行では味わえない事が沢山あり、貴重な日々を過ごす事ができ感謝しています。この体験を生かし、今後に繋がりたいと思っています。また、リーダーの桜井君、可奈ちゃん、遼太君。一緒に参加できた事光栄に思います。皆それれ私にはない物があってキラキラ輝いていました。いつか私も皆のようになりたいです。また皆で参加したいな。そして、参加者の皆。色々な場面で私が忘れかけていた事を気づかせてくれてありがとう。頼りないリーダーだったけど、いっぱい話しかけてくれてありがとう。嬉しかったよ。これからのご活躍に期待しています。

J.K.さん (21 歳)

とても楽しい3泊5日でした。私自身も皆と仲良くなる事が出来たし、皆もバディの子とは当たり前のように他の子とも友達になり仲良く遊んでいました。オーストラリアに着いたばかりの時は皆不安そうな顔つきだったけど、二日目と時間が経つにつれて、毎日朝から元気いっぱい、とても楽しそうでした。その他皆の変化がイッパイ発見できて私も そんな皆を見るのが毎日楽しみでした。また是非皆と一緒に旅をしたいと思っています☆

S.Y.君 (25 歳)

今回は参加 20 名と、過去 3 回に比べて人数の少なかったのですが、やはり言葉の壁から子供達がバディー達がうまくやっていけるか心配だったです。しかし、子ども達の順応性は素晴らしく、実際みんな仲良くなって予想以上に溶け込め、毎回そうですが、本当に驚かされます。参加した子供達にも、リーダー達にも、もちろん僕自身にもいい経験になったと思います。

スタッフ

佐々木百合香さん 藤枝市国際友好協会副会長

藤枝市国際友好協会・会長と共に、今回 4 回目の同行となりました。4 回目であっても、「大きい子は、小さいの面倒をみて、高校生は、リーダーを助け、リーダーは、献身的に子供達をまとめ」という流れが自然とできあがっているのを見て、大きな群れの中で人間関係を造っていく、というこの活動の原点をみたような感じがしました。

オーストラリアの雄大な自然の中で、ペンリスの人達のユーモアたっぷりのおおらかな気持ちに包まれ、子供達は、自分のおかれた状況の中で精一杯がんばっていました。もう、やるっきゃない！のでした。この 4 日間の経験は、子供達の生涯の宝物となり、何かを打ち破り、新しい一步を踏み出すエネルギーになっていくに違いありません。このすべての活動をペンリスで企画運営してくださった、ペンリス市市役所・ペンリス市国際友好協会の皆様がたに心からお礼を申し上げたいと思います。

後藤彰 藤枝市国際友好協会会長 (当時)

参加した学生の皆様は、藤枝出発の時の顔とペンリスから帰ってきた時の顔が大変に変化したいい顔でした。ペンリス市での合宿の成果だと思います。新しい事へのチャレンジを持ち、その得た体験をこれからの人生に生かして下さい。ペンリスのお別れパーティーでの合唱は特に素晴らしかったですよ。参加した全員の気持ちが一つになったハーモニーが、ペンリス市の皆様にも感動を与えたと思います。皆様の夢を実現して下さい。今後益々の活躍を心からご祈念致しております。

山下泰孝 NPO 静岡県教育フォーラム理事長

藤枝、ペンリス両市の国際友好協会の多大なご支援の元、お陰様でこの交流合宿も4回目となりました。日本での事前の研修があるものの、参加した皆さんの感想文からお分かりのように、わずかに4泊5日の交流合宿でも、その名の通り、バディたちも含め、参加しました仲間たちと、深く強い絆=仲間意識が生まれます。そして、その絆が参加しました子供の心理に、またお手伝い頂きましたリーダーやスタッフのみなさんの心理に、素晴らしい大きな変化をもたらしてくれます。それが自信であったり、自分の心を開放してくれる力であったり、また、人を思いやる心であったり、自分自身を動かす力であったり、・・・様々です。本当の仲間って、素晴らしいと思います。群れ集う仲間たちは、本当に素晴らしいものを作り上げます。それが私をして、こうした活動を続けさせるのです。ご支援頂きました皆さまに、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。